

カンキツ黒点病の防除薬剤の検討

カンキツ黒点病に使用されているエムダイファー水和剤（年間使用回数2回）が令和8年10月に登録失効予定のため、防除体系構築のため薬剤の検討を行った。

■ 黒点病とは

- 病原菌は糸状菌 (*Diaporthe citri*)
- 果実などに黒点状の病斑を形成
- **伝染源は枯枝上で形成される胞子**
- 胞子が降雨で飛散して感染

**防除価が大きい剤の方が
効果が高い**

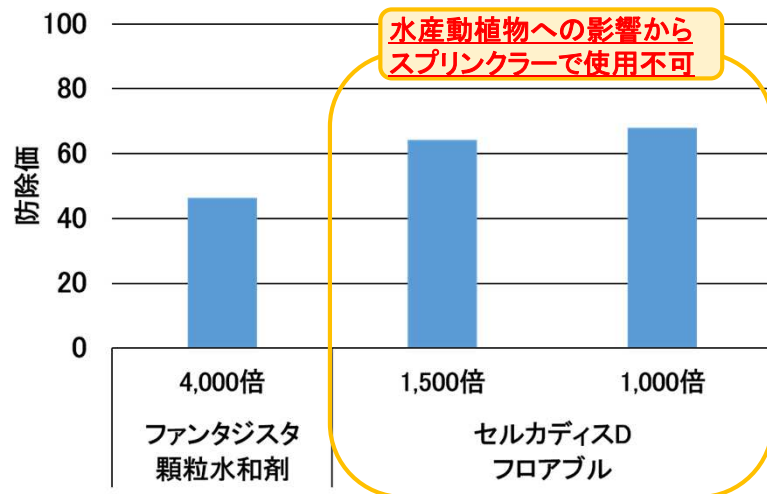


■ 現在の防除体系と注意点

- 幼果期～秋季まで継続的にFRACコード:M3のマンゼブ剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤)、マンネブ剤(エムダイファー水和剤)を定期的に散布
- マンゼブ剤は年間4回以内、マンネブ剤は年間2回以内の使用
- 開花期頃や収穫前は、Qoi剤(FRACコード:11)などを散布
- **水産動植物に影響の大きい農薬はスプリンクラーで使用不可**

■ 開花期の防除薬剤の検討

果面の1/4以上の発病果率での防除効果(無処理発病果率:7%)



供試品種 セとか(13年生)

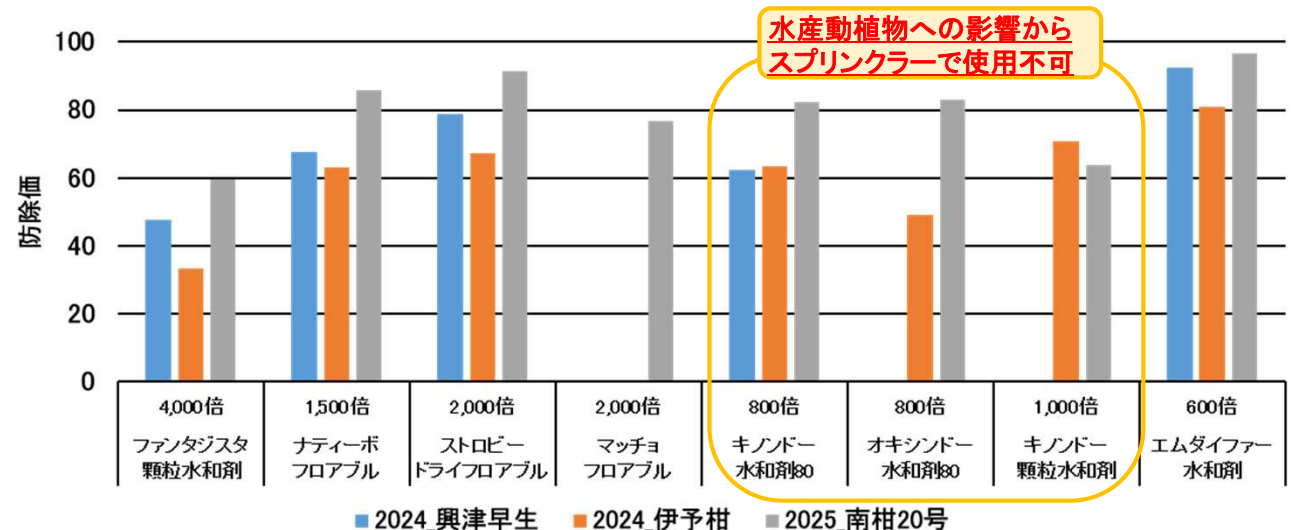
2023年5月16日(満開～落弁期)は各供試剤を散布

5月18日(1回目散布2日後)に樹冠上部(1か所)に培養枝(3本)を接種

6月5日～8月3日の4回は無処理区含む全区にジマンダイセン水和剤を散布

9月3日に100果/樹の発病を調査

■ 4回連続散布による防除効果の比較 (注:試験のため登録内容に準じていません)



50果または100果/樹について無～基までの5段階で発病程度調査を行い発病度と防除価を算出
1区1樹3反復(2024_伊予柑のファンタジスタ顆粒水和剤、オキシンドー水和剤80は2樹)

ジチアノンを含むセルカディスD(F)の防除効果は高いが、マシン油乳剤と1ヵ月以上の散布間隔をあける、夏期以降の散布は避けるなどに注意が必要。

エムダイファー水和剤に匹敵する防除効果の剤は無いが、スプリンクラーで使用できる剤として、ストロビードライフロアブルとナティーボフロアブルの効果が比較的高い。